

第1章 計画の背景

1 栄区の現状と地域福祉の課題

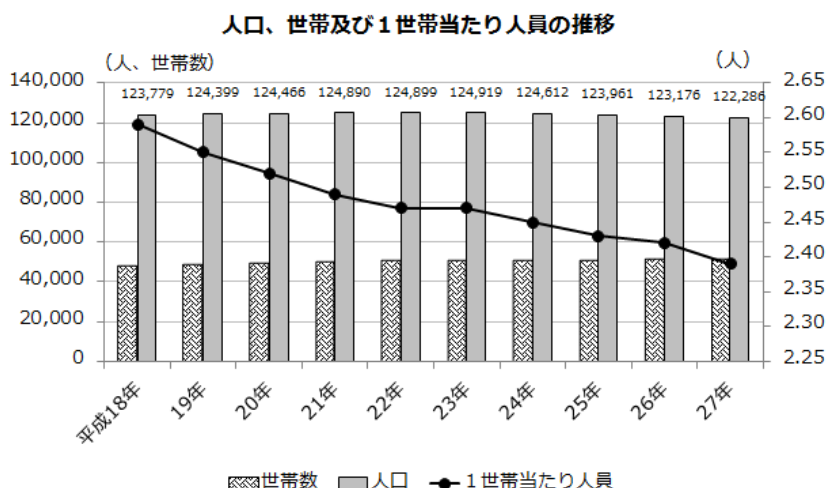
(1) 人口の減少

栄区の人口は、昭和30年代後半から50年代前半にかけて、丘陵部の宅地開発によって急増しましたが、昭和60年代以降は微増、平成10年代に入ると横ばいが続く、平成27年1月1日現在の人口は122,286人となっています。一方で、世帯数は増加傾向にあり、1世帯当たり人員は減少しています。

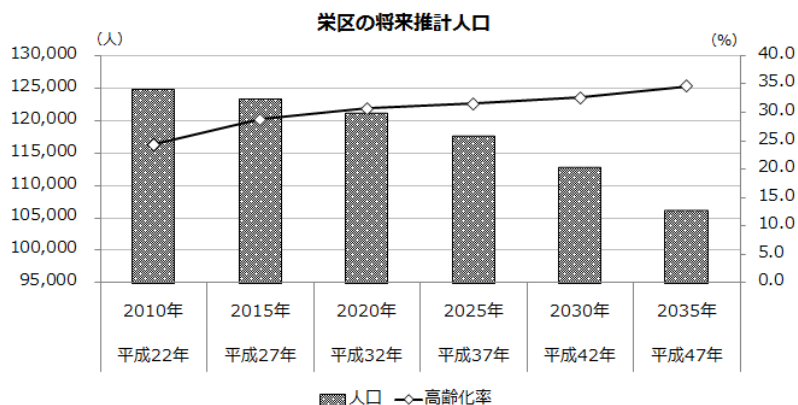
今後もこの傾向が続く、平成37年には117,700人、平成47年には106,200人まで減少すると予測されます。

年齢区別の人口推移では、65歳以上人口(高齢人口)の増加、15~64歳人口(生産年齢人口)の減少、15歳未満人口(年少人口)の減少が進んでいます。現在約4人に一人が高齢者ですが、10年後には3人に一人が高齢者となると予測されています。

これらの人口の動向は、高齢化の進展、少子化の進展、核家族化、一人暮らし世帯の増加をもたらす、日常的な地域生活に大きな影響を及ぼします。



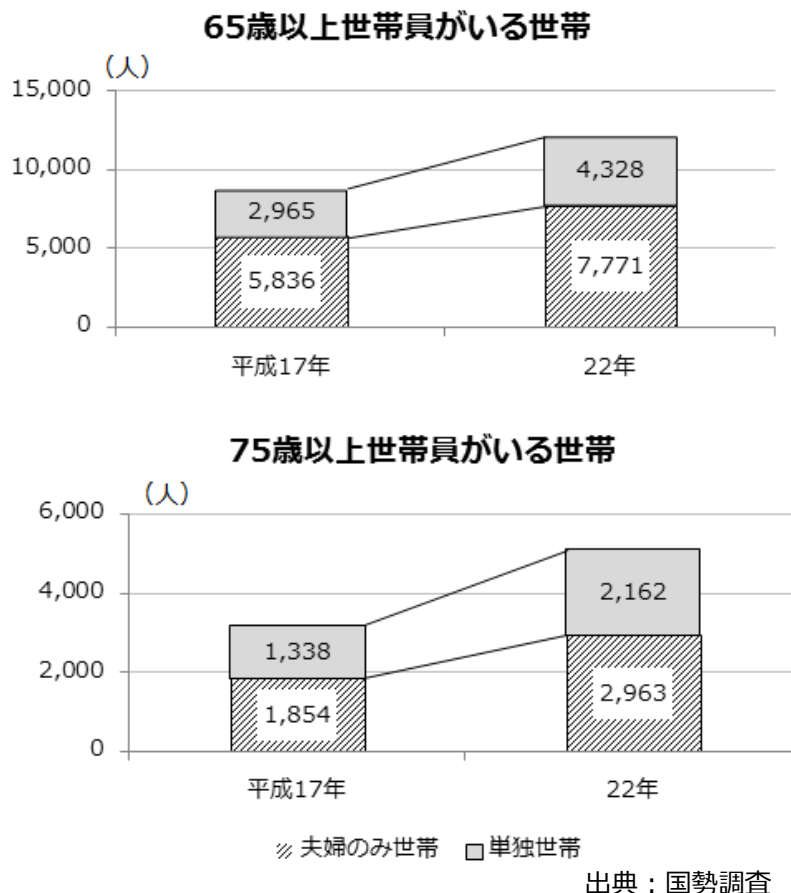
出典：横浜市人口ニュース（各年1月1日現在）



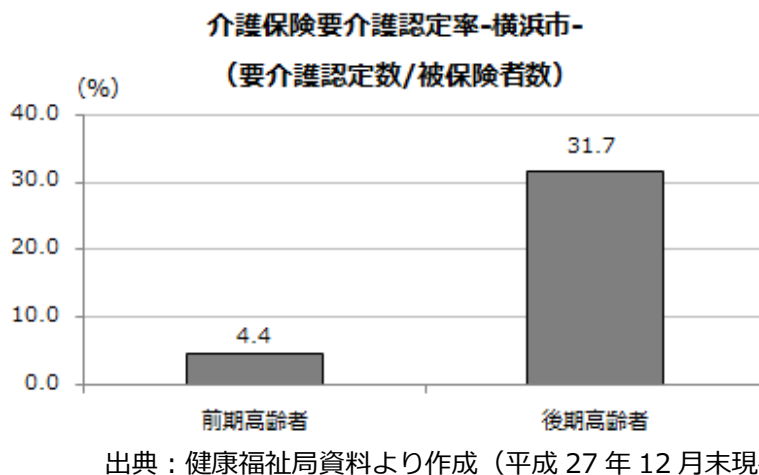
出典：将来人口推計

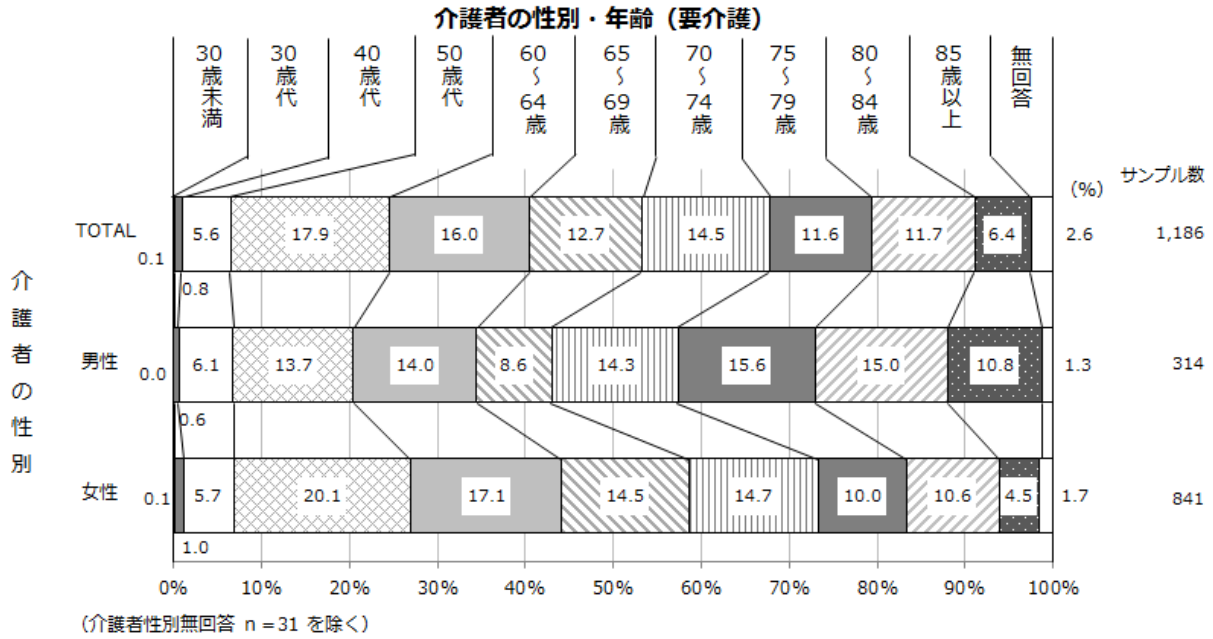
(2) 進む高齢化

平成17年から22年の5年間に、65歳以上世帯員のいる夫婦のみ世帯、高齢単独世帯が増えています。75歳以上の高齢者がいる世帯では、75歳以上の夫婦のみ世帯、単独世帯ともに5年間で1.6倍になっています。



高齢化が進むと、要介護者も増加します。要介護認定率は、前期高齢者では4.4%ですが、後期高齢者になると31.7%となり、今後、後期高齢者が急増する栄区では、要介護者の急増が予測されます。

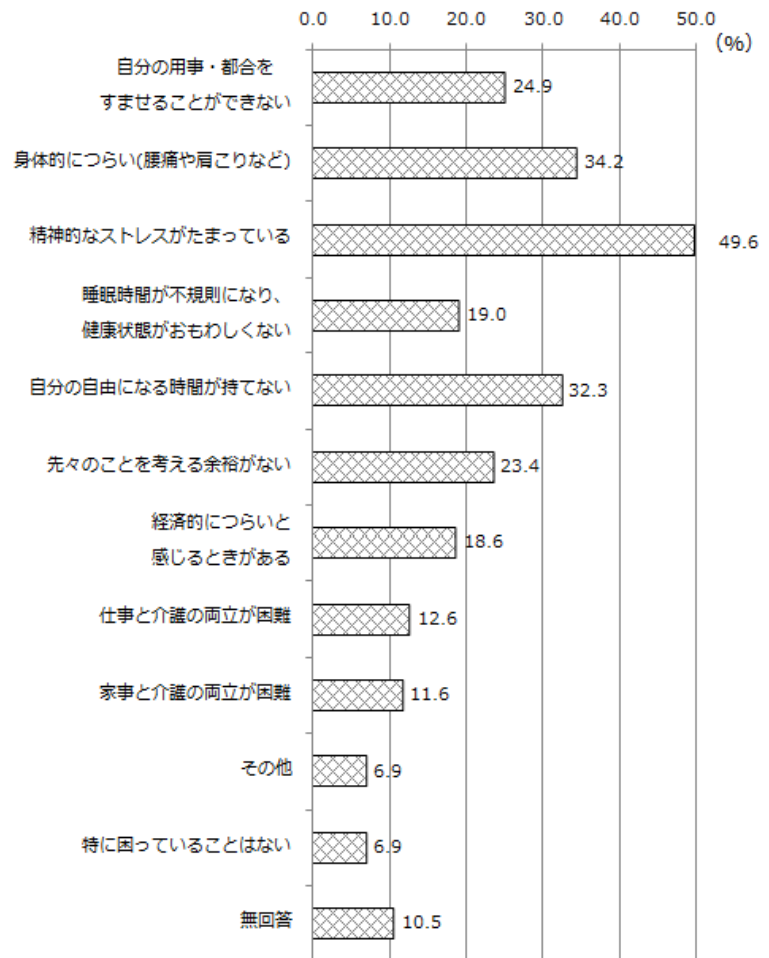




介護者の負担（要介護）
n=1,186

在宅における介護者の性別では、女性の割合が約7割と高く、年齢は65歳以上の方が約6割となっています。介護者が負担に思う内容では、「精神的なストレスがたまっている」が約半数を占めるほか、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」、「自分の自由になる時間が持てない」が、それぞれ3割以上を占めています。

このように、要介護の現場では、老老介護、女性への負担が大きいという実態があり、介護負担の軽減が大きな課題です。

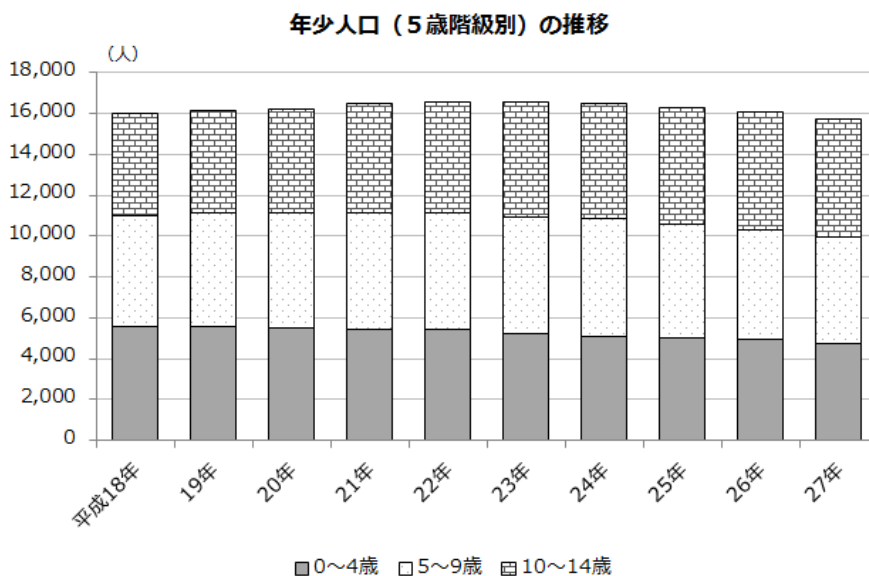


出典：横浜市高齢者実態調査報告書（平成26年3月）

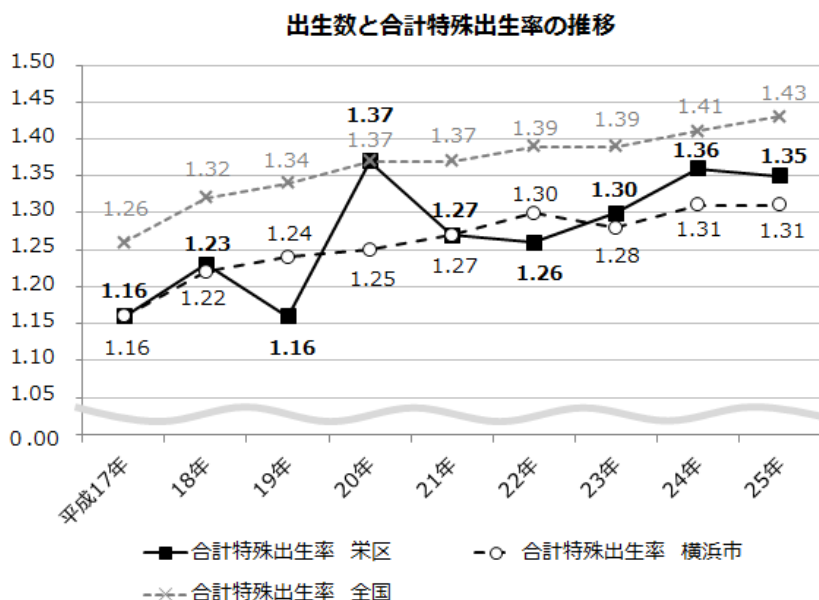
(3) 進む少子化

年少人口は、平成22年をピークに減少し、特に0～4歳人口は8年連続で減少しています。少子化の要因は様々ですが、栄区では出産年齢人口が減少し、合計特殊出生率が1.35と低位にあることも大きな要因と考えられます。

少子化の進行は、共働き世帯の増加と相まって、養育者の地域での孤立や育児不安の増加をもたらし、子どもにとっては同世代との交流の機会が少なくなるという問題にもつながります。今後、少子化はさらに進むと考えられ、安心して子育てができる環境の整備が課題になります。



出典：横浜市の人口動態（各年1月1日現在）

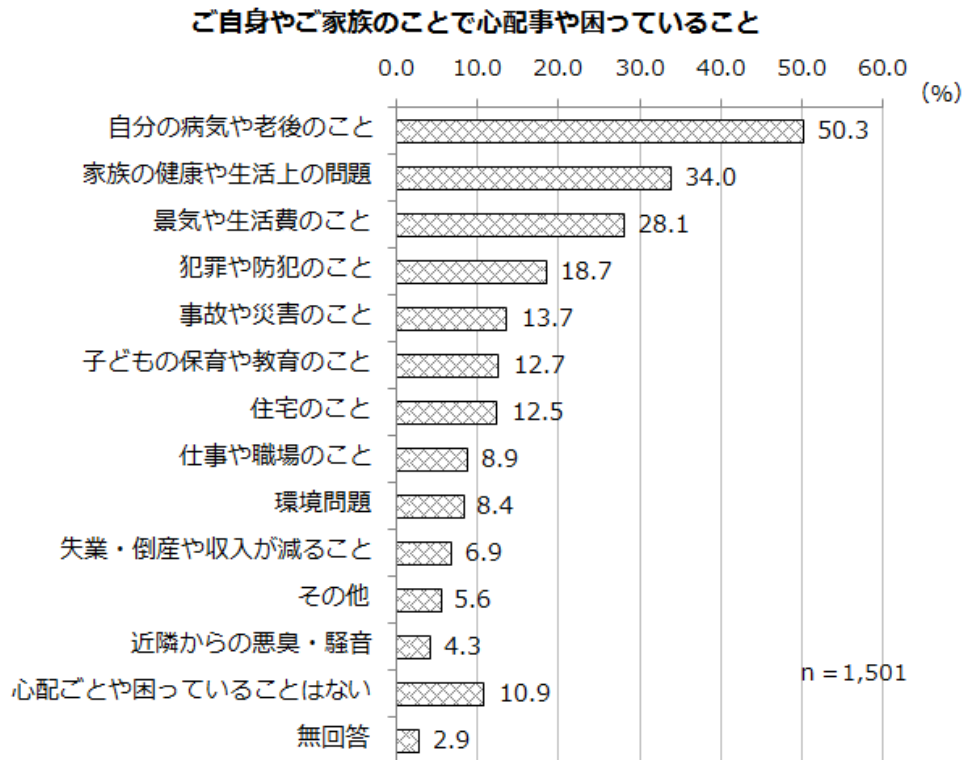


出典：横浜市統計書

(4) 「健康」の維持増進への取組の必要性

平成 27 年度に実施した栄区区民意識調査では、心配ごとや困っていることはないとする人は 1 割で、ほとんどの人が何かしらの心配ごとや困っていることがあると回答しています。

心配ごとや困っていることの上位は「自分の病気、老後」「家族の健康や生活上のこと」など「健康」に関わる項目が上位を占めています。高齢化の進む栄区では、一人ひとりの取組により自立した期間を伸ばすよう、高齢期になる前から継続した取組を進めていくことが重要となっています。



出典：平成 27 年度栄区区民意識調査

(5) 障害者支援の取組

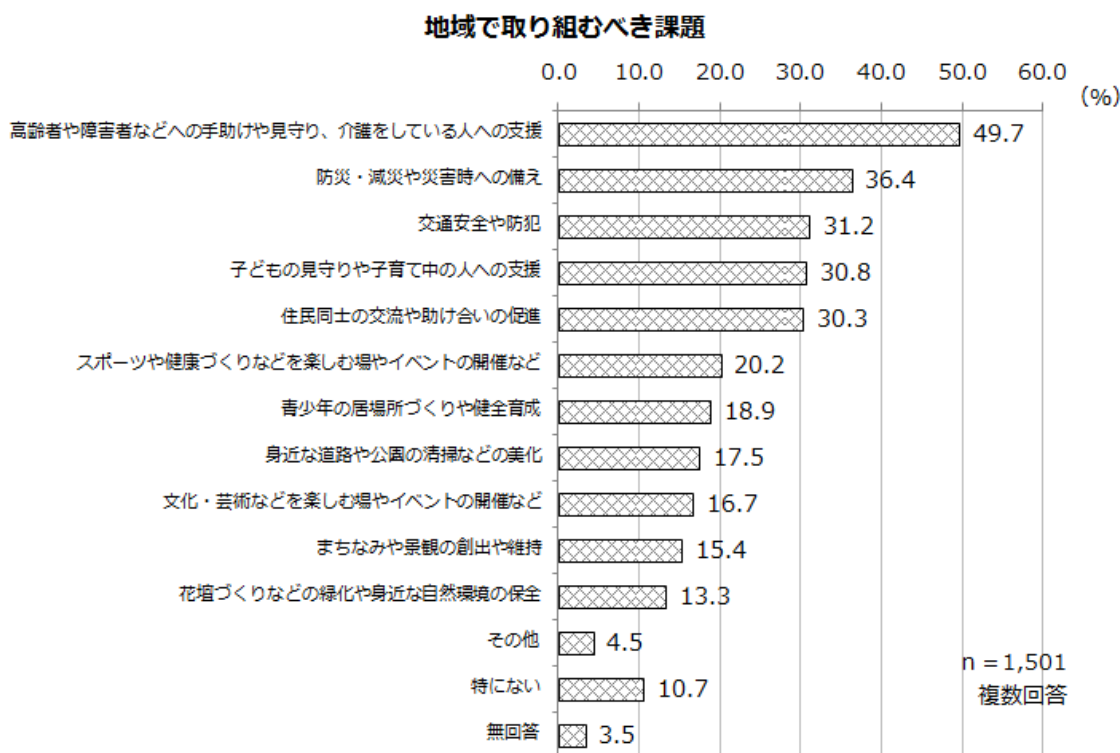
日本で初めての通所による重症心身障害者の施設「朋」が栄区に開設され、障害への理解は進みつつあります。

平成 27 年度に実施した栄区区民意識調査では、「あなたのお住まいの地域で、取り組むべき課題にはどのようなものがあると思いますか」の設問では、「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」が 49.7%と最も多くなっています。障害児・者の地域生活を支えるには、障害をその人の個性としてとらえ理解することが大切です。障害の理解に向けて、地域での交流、見守り、支えあいをさらに進めていくことが課題となっています。

(6) 災害時要援護者支援の取組

平成 27 年度の栄区区民意識調査では「地域で取り組むべき課題」について、「防災・減災や災害時への備え」は 36.4%と上位に位置しています。

阪神淡路大震災や東日本大震災では、近所同士の声のかえあいや顔見知りの関係など、日頃のお付き合いが災害時の助け合いに活かされたと報告されています。災害時に地域がどう対応できるのか、何をしなければならないのかを考えていくことは、今後も地域にとって大きな課題と考えます。

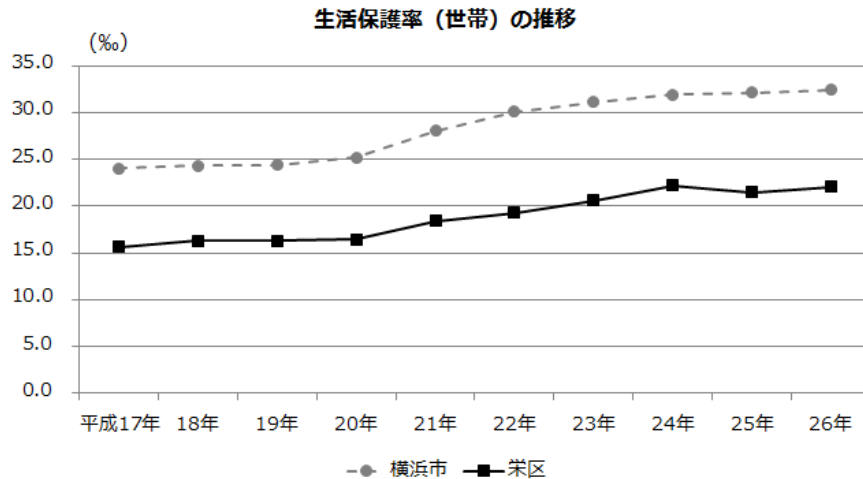


出典：平成 27 年度栄区区民意識調査

(7) 生活困窮者支援

栄区の生活保護世帯の割合は増加していますが、横浜市平均と比べると低くなっています。生活困窮というと、「経済的困難」、「生活保護」と考えてしまいがちですが、その要因は多岐にわたるため、支援の方法、レベルもひとつではありません。例えば、貧困のなかでも大きな問題となっている子どもの貧困は、貧困の連鎖を防ぐことが大切です。そのためには教育、地域における「つながり」の中で、子どもを見守っていくことが必要です。

つなぐ、見守る、防ぐ等の地域のセーフティネット（共助）と行政の制度による支援（公助）の連携が課題です。



(8) 共助社会づくり

地域における暮らしは、少子高齢化、核家族化、地域関係の希薄化、経済的状況の悪化など様々な要因によって、多様な生活上の課題が生まれています。

行政の支援だけでは解決できない、生活上の課題についても、地域に共通した課題として、地域の支えあい・つながり（自助・共助の取組）で解決し、「暮らしやすいまちづくり」を進めていく必要があります。

栄区では「安全・安心」なまちづくりを目指してセーフコミュニティの取組が行われています。高齢者や障害者、子どもの見守りなど、これらはまさに地域コミュニティのあり方が問われてくる今後の課題です。

2 第3期計画における7つのテーマ

これらの栄区の現状と地域福祉の課題を踏まえた7つの論点を基に議論を重ね、第3期さかえ・つながるプラン（栄区地域福祉保健計画）では、次の7つのテーマを設定しました。

《7つの論点》

- (1) 超高齢社会の安全、安心を支える地域コミュニティとは
- (2) 安心感のある子ども子育てができる地域コミュニティとは
- (3) 健康志向生活を送ることができる地域コミュニティとは
- (4) 地域コミュニティが担う福祉的側面からの防災対応とは
- (5) 地域コミュニティが行政と連携してできる生活困窮者の支援とは
- (6) 障害者が安心して暮らせる地域コミュニティとは
- (7) 福祉保健の充実に向けての地域社会のあり方や各主体の役割は

《7つのテーマ》

- (1) 栄区らしい共助社会づくり
- (2) いつまでも安心して暮らせる地域社会づくり
- (3) 地域が支える出産・子育てから青年期までの切れ目のない支援
- (4) 区民総ぐるみの健康ライフスタイル
- (5) 地域防災における福祉的視点の充実強化
- (6) 障害者が安心して暮らせる地域づくり
- (7) 地域と連携した生活困窮者支援